

KASUMI

香住駅



Geopark  
Train

ジオトレ



AMARUBE

余部駅

### ジオトレってなに？

多彩な海岸地形・地質を観察することができる香住海岸ジオエリア。香住海岸を観るなら…カヤック？それとも車でドライブ？どれも魅力的ですが、たまには列車の旅なんていかがでしょう。海岸線を走る山陰本線の車窓からの景色は、懐かしさと共に新しい発見を運んでくれます。白石島、兄弟赤島、鎧の袖、鎧港…入り組んだ海岸沿いをぬって、ダイナミックな地形の中を走り、余部橋梁より眼下に眺める余部湾。

香住～余部までの10分間、香住海岸ダイジェスト版へ、いざ出発進行！！



列車から次のポイントが見えます！！ ※時間は香住駅出発からの経過時間です。



列車の旅スタート

矢田橋を越え、町並みの奥



お椀形の白い島

二つトンネルを抜けると…



二つ並んだ赤褐色の島

赤島と同時に…



余部橋梁の上からの景色

トンネルを越え、橋梁上より



鎧駅の眼下に広がる漁港

鎧駅に到着すると…



香住海岸“見どころNO.1”



余部駅&余部鉄橋「空の駅」【約10分】

山陰海岸ジオパークとは？

### おさらい帳

ジオパークは、科学的に貴重な地質遺産をはじめ、大地がもたらした暮らしや文化、歴史、特産品を含めて五感で楽しむことができる「地域がまるごと大地と暮らしの博物館」です。山陰海岸ジオパークは2010年10月、ユネスコが支援する「世界ジオパークネットワーク」に加盟認定されました。

山陰海岸ジオパークには、日本列島がアジア大陸の一部だった時代から今日に至るまでの日本海と大地の営みが刻まれており、それらがもたらす多様な自然を背景にした人々の文化と暮らしを楽しむことができます。

各ポイントの解説は、ウラページをご覧ください♪

# 車窓からの見どころをご紹介します。



## 1. 白石島（しろいしま）

白石島は、最外周約4km、最高地点の標高55mの無人島です。島には原生林に近い常緑葉樹林が広がっています。スタジイが最も多く、続いてタブノキ、ヤブニッケイ、ツバキ、モチノキなどがあります。その中にエノキ、ムクノキ、ケヤキ、ハゼなどの落葉広葉樹が混生しています。樹木の大きさは径1.5mを超えるものも多くあり、大変貴重な島です。島の色の違いは、岩質の違いによるものです（緑色凝灰岩）。火砕流が流れた際、火山灰が固まってできた島です。

## 2. 兄弟赤島（きょうだいあかじま）

兄弟が寄り添うように並ぶ、赤い色をした島。赤っぽい色をした火山岩（流紋岩）でできており、島全体が赤く見えます。この火山岩は日本海が形成されている最中の火山活動に伴ってこの場所に流れ出たものと考えられ、硬いので波などによる侵食に耐えています。手前のオッパセ浜は白い石ころ（主に鎧の袖の石が波の力で削られ丸くなったもの）のできた礫浜で、礫浜の白、海と空の青、兄弟島の赤、それに植物の緑のコントラストが美しいです。

## 3. 鎧の袖（よろいのそで）

鎧の袖は、高さ65m、幅約180m、角度70度の大きな岩壁で、1938年に国の天然記念物に指定されました。日本海が形成された後、地下の地層中に入り込んだマグマが冷え固まる際にできた縦方向に伸びた割れ目と横方向に伸びた割れ目が垂直に交わり、鎧の「おどし」のように見えるために、「鎧の袖」と言われています。また、鎧の袖の延長線上にある「鷹の巣島」と「蜂の巣島」は、鎧の袖の岩石が波によって削られてできた自然の彫刻作品です。

## 4. 鎧漁港（よろいぎょこう）

鎧駅の眼下に広がる「鎧漁港」。入江状の地形が風よけとなり、古くから天然の良港として栄えました。漁港を見下ろす高台に作られた鎧駅は、鉄道ファンの間でも人気が高く、ドラマ『ふたりっ子』や『砂の器』のロケ地としても使われました。鉄道が陸運を一手に担っていた時代、鎧漁港で水揚げされたマグロ、サバ、ブリなどの魚は、ケーブルに繋がれた台車で鎧駅まで上げられました。この「魚類運搬車軌道（インクライン）」跡が、今も当時のまま残されています。毎年端午の節句の頃、漁港には約200mにわたって鯉のぼりが飾られ、青い海をバックに潮風を受けて爽快に泳ぐ姿が見られます。

## 5. 余部湾（あまるべわん）

余部橋梁から眼下に見渡せる余部湾。黒い瓦屋根の町並みと青い日本海の絶景は、旧鉄橋時代から多くの人に愛されてきました。湾の東側、余部東港のある半島を「さわり鼻」といいます。上部が泥岩や砂岩の地層、下が火山岩から成っていて、美しい縞模様を見せています。余部湾の西側は、伊笹岬へと続きます。この岬にある「釣鐘洞門」は、高さ約50m、直径約30m、山陰海岸最大の洞門と言われています。冬になると、夏の穏やかな海からは想像もできない突風が、陸地に向かって吹き荒れることがあります。地元では「うらにし」と呼ばれる季節風です。昭和61年12月28日の列車転落事故も、そんな悪天候の日の出来事でした。悔やみきれないこの事故が、私達に多くの課題と教訓を残しました。安全性・定時性を向上した2010年の新橋架け替え事業、道の駅・空の駅の建設、余部は今、大きな転換の時代を迎えています。



鎧の袖近景



鎧駅のベンチ



鉄道から見るジオパーク(地図)